MF-90HD/SD 用 MXF 素材登録自動変換オプション

MF-90-04X

取扱説明書

必ずお読みください！

ビデオトロン株式会社

101241R07

複写・転載を禁止します。

発行元の許可なく、この文書の記載内容を複写・転載することを禁止します。

本書に記載している商標

Microsoft®、Windows®、および Windows XP®、Windows Vista®は、Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。

Adobe®、Adobe Flash®、Adobe Photoshop®は、Adobe Systems Incorporated の米国および他の国における商標または登録商標です。

その他本書中に記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。

変更について

この文書の情報は単なる情報として提供されるものであり、予告なく変更される可能性があります。

この製品を安全にご使用いただくために

- 本製品を安全に正しくご使用いただくために、ご使用前に本取扱説明書（以下、本書とします）を必ずお読みください。
- 本書はお読みになった後で、いつでも見られる所に保管してください。

⚠ 警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1、電源プラグ、コードは

- 指定された電源電圧（AC100V 50/60Hz）以外では使用しないでください。
- AC 電源（室内電源）の容量を超えて機械を接続し長時間使用すると火災の原因になります。
- 差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- 濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- 抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- コードは他の機器の電源ケーブルや他のケーブル等にからませないでください。
- コードの上に重い物を載せないでください。電源がショートし火災の原因になります。
- 機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にしてからプラグを抜いてください。

2、本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- すぐに電源スイッチを切ってください。ただし、電源回路上、切れない場合があります。その時は電源プラグを正しく抜いてください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザーによる警報音がした場合にはすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- 上下に設置されている機械の電源スイッチまたはメインのブレーカーを切ってください。
- 空調設備を確認してください。
- しばらく、手や体を触れないでください。ファンの停止が考えられます。設置前にファンの取り付け場所を確認しておきファンが停止していないか確認をしてください。５年に一度はファンの交換をおすすめします。
- 機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり火災の原因になります。
- 消火器は必ず１本マシンルームに設置し緊急の場合に取り扱えるようにしてください。
- 弊社にすぐ連絡ください。

3、機械の近くでは飲食やタバコ、火気を取り扱うことは絶対に行わないでください。

- 特にタバコ、火気を取り扱うと電気部品に引火し火災の原因になります。
- 機械の近く、またはマシンルーム等の密閉された室内で可燃性ガスを使用すると引火し火災の原因になります。
- コーヒーやアルコール類が電気部品にかかりますと危険です。

4、修理等は、ご自分で勝手に行わないでください。

下記のあやまちにより部品が発火し火災の原因になります。

- 部品の取り付け方法(極性の逆等)を誤ると危険です。
- 電源が入っている時に行うと危険です。
- 規格の異なる部品の交換は危険です。

5、その他

- 長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
- 重量のある機械は1人で持たないでください。最低2人でかかえてください。腰を痛めるなど、けがの元になります。
- ファンが回っている時は手でさわらないでください。必ず停止していることを確かめてから行ってください。
- 車載して使用する時は確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
- 本体のラックマウントおよびラックの固定はしっかり建物に固定してください。地震などによる災害時危険です。
- また、地震の時は避難の状況によりブレーカーを切るか、火災に結び付かない適切な処置および行動を取ってください。そのためには日頃、防災対策の訓練を行っておいてください。
- 機械内部に金属や導電性の異物を入れないでください。回路が短絡して火災の原因になります。
- 周辺の機材に異常が発生した場合にも本機の電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。

⚠ 注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1、操作卓の上では飲食やタバコは御遠慮ください。

コーヒーなどを操作器内にこぼしスイッチや部品の接触不良になります。

2、機械の持ち運びに注意してください。

落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。

また、足元に落としたりしますと骨折等けがの原因になります。

3、フロッピーディスクやMOディスクを取り扱う製品については

- 規格に合わないディスクの使用はドライブの故障の原因になります。
  マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- 長期に渡り性能を維持するために月に一回程度クリーニングキットでドライブおよびMOディスクをクリーニングしてください。
- フィルターの付いている製品はフィルターの清掃を行ってください。
  通風孔がふさがり機械の誤動作および温度上昇による火災の原因になります。
- 強い磁場にかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。

- 大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

定期的なお手入れをおすすめします。

- ほこりや異物等の混入により接触不良や部品の故障が発生します。
- お手入れの際は必ず電源を切ってプラグを抜いてから行ってください。
- 正面パネルから、または通風孔からのほこり、本体、操作器内部の異物等の清掃。
- ファンのほこりの清掃
- カードエッジコネクタータイプの基板はコネクターの清掃を一ヶ月に一度は行ってください。

また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な（5年に一度）オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社までお問い合わせください。

**上記現象以外でも故障かなと思われた場合は弊社にご連絡ください。

☆連絡先・・・・・・ビデオトロン株式会社
〒193-0835　東京都八王子市千人町2－17－16

TEL　042－666－6329
FAX　042－666－6330
受付時間　8:30～17:00
E-Mail　cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先
留守番電話　042－666－6311
緊急時　**　090－3230－3507
受付時間　9:00～17:00

**携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承願います。

目次

この製品を安全にご使用いただくために II
1. 概要 1
2. 特長 1
3. 必要システム構成 2
4. インストール 3
4.1. アプリケーションインストール 3
5. ソフトウェアの起動 4
6. 対応フォーマット 5
6.1. 静止画 5
6.2. MXF 5
7. 基本操作 6
7.1. 画像ファイル 1 枚を変換 6
7.2. 複数枚の画像ファイルを動画またはロールとして変換 7
7.3. MXF ファイルを変換 7
8. 機能説明 8
8.1. フォーマット変換 8
8.2. 変換許可時間帯/禁止時間帯 8
8.3. オリジナルファイルの退避（バックアップ） 9
8.4. 変換設定ファイル 9
8.5. ロール設定ファイル 9
8.6. ロール入力フォルダー 9
8.7. 出力フォルダー 11
8.8. 入力・退避・出力フォルダーの関係 11
8.9. 変換処理のキャンセル 12
8.10. ファイル名の自動認識 12
8.10.1. FILL/KEY ペアファイル 12
8.10.2. 連番ファイル 12
8.10.3. 音声ファイル 14
9. 各部の名称とはたらき 15
9.1. タスクトレイアイコン 15
9.2. メインウィンドウ 16
9.3. メニュー 17
9.4. ログ表示 18
9.5. 「過去のログを表示」ウィンドウ 19
9.6. 「オプション」ウィンドウ 20
9.6.1. [一般]タブ 21

9.6.2. [時間帯設定]タブ 22
9.6.3. [入力フォルダー]タブ 23
9.6.4. [出力フォルダー]タブ 24
9.6.5. [退避フォルダー]タブ 25
9.6.6. [静止画出力]タブ 26
9.6.7. [動画出力(1)]タブ 28
9.6.8. [動画出力(2)]タブ 29
9.6.9. [ロール出力]タブ 30
10. 注意事項 31
10.1. FILL を含まない VJ2 ファイルの出力 31
10.2. Flash(swf)ファイルの変換 31
10.2.1. レターボックス/サイドパネルが付かない場合がある、背景色指定が機能しない 31
10.2.2. アニメーションしない 31
10.2.3. Flash アニメーション再生時とは異なる速度でアニメーションする 31
10.3. 入力フォルダーのロック 32
10.4. 手動での変換作業 32
10.5. 拡大縮小を伴うロールファイルの変換 34
10.5.1. 余り部分の処理 34
10.6. ロール設定ファイル 36
10.6.1. 拡張子 36
10.6.2. ファイル名 36
10.6.3. フォーマット 36
10.6.4. キーワード 37
10.6.5. 区切り文字 37
10.6.6. 設定値 37
10.6.7. サンプル 38

1. 概要

この製品は、業界標準の動画ファイル交換形式であるMXFファイルを、MF-90HD/SDのファイルフォーマットであるVJ2ファイル(ビデオトロン独自形式)に自動変換するソフトウェアです。
素材受け付け用のフォルダーを常時監視して、フォルダー内に保存されたフォルダーやファイルを自動的に変換します。

変換後の(出力される)VJ2ファイルの属性は、あらかじめソフトウェアに設定しておくことができます。
また変換処理完了後に、入力された元ファイルを指定のフォルダーにバックアップ(退避)することが可能です。

ソフトウェアの入出力インターフェースがシンプルなので、外部システムとの連携も容易です。

※ 以降、素材受け付け用フォルダーを 入力フォルダー と記載します。
※ 変換したファイルが保存されるフォルダーを 出力フォルダー と記載します。
※ 変換後、入力された元ファイルが退避されるフォルダーを 退避フォルダー と記載します。

2. 特長

- 入力フォルダーを監視して、フォルダー内に保存されたフォルダー/ファイルを自動的に変換
- 変換完了後、入力ファイルを退避フォルダーにバックアップ
- 出力フォルダー・退避フォルダーは、ローカルコンピューター上/ネットワーク上を問わず指定可能
- 入力フォルダーにフォルダー/ファイルをドラッグ&ドロップするだけで変換可能
- フォルダーを入力すると動画に変換、ファイルを保存すると静止画に変換
- 出力するVJ2ファイルの属性を個別に指定可能(変換設定を記述したファイルを入力ファイルと共に保存)
- 変換エラー発生時には、エラー情報を含むテキストファイルを出力
- インターフェースがシンプルなので、外部システムとの連携が容易

3. 必要システム構成

- Intel® 1.3GHz クラス以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピューター
  （Core™ 2 Quad 2.0GHz 以上、4 以上の物理コアを搭載した CPU を推奨）
- 512MB の RAM（1GB 以上を推奨）
- インストール時に 100MB 以上の HDD 空き容量
- 32bit カラー表示が可能なグラフィックアクセラレータおよびディスプレイ
- Microsoft® Windows XP® Professional（SP3）日本語版（32bit 版）、
  Windows Vista® Home Basic、Home Premium、Business、Ultimate、Enterprise（SP1 または 2）日本語版（32bit 版および 64bit 版）、
  Windows 7 Starter、Home Premium、Professional、Ultimate、Enterprise 日本語版（32bit 版および 64bit 版）
  （64bit 版 OS では互換モードで動作）
- Microsoft® Internet Explorer 6.0(SP2)以降
- Internet Explorer 用の、最新の Adobe® Flash®プラグイン（swf ファイルを変換するために必要）

※ swf ファイルを使用しない場合は、Flash プラグインのインストールは必要ありません。

※ 本製品に Adobe® Flash®プラグインは同梱されていません。Adobe ホームページからプラグインをインストールしていただくようお願いいたします。

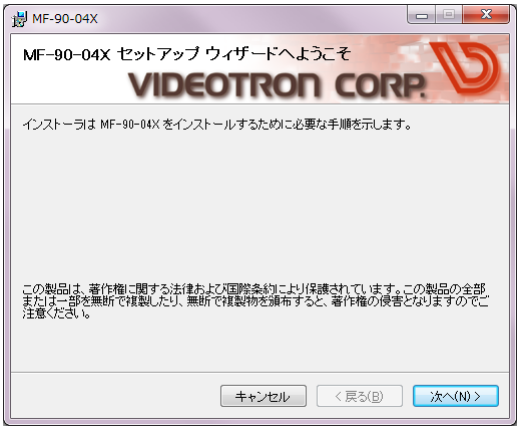
4. インストール

4.1. アプリケーションインストール

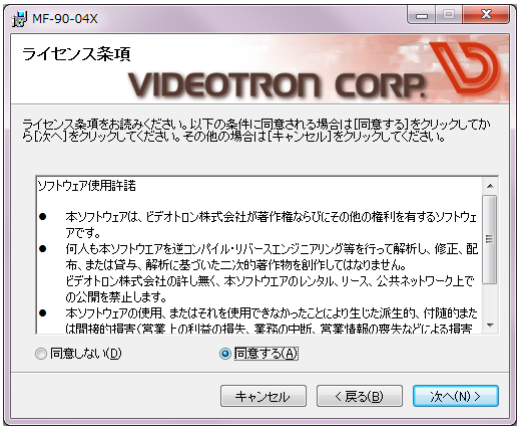
本ソフトウェアのインストールは、以下の手順で行います。

1. Windows 起動後、Administrator 権限のあるユーザーでログオンします。
2. ダウンロードした、またはインストール CD 内の「App」フォルダーを開きます。
3. フォルダー内の「MF-90-04X_Setup.msi」をダブルクリックします。
4. 画面上に次のダイアログが順番に表示されます。
   各項目を確認しながら[次へ]をクリックしてインストールを進めてください。

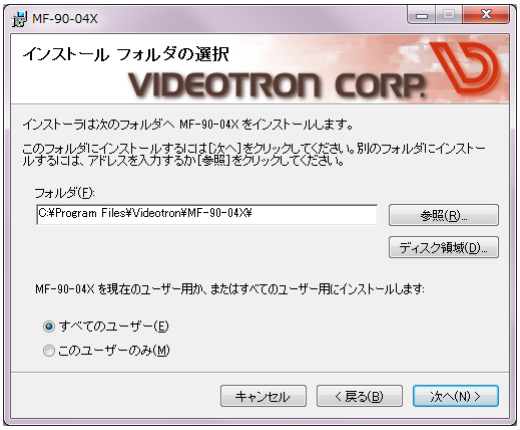
1)



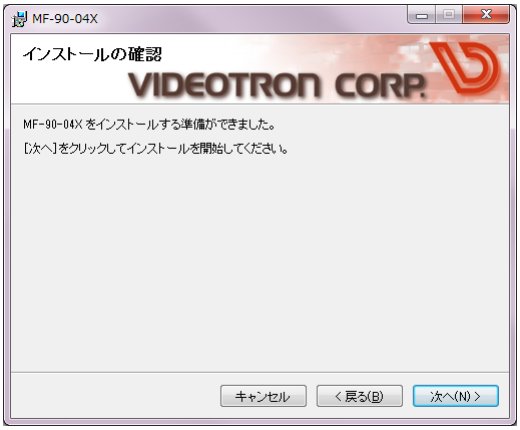
2)



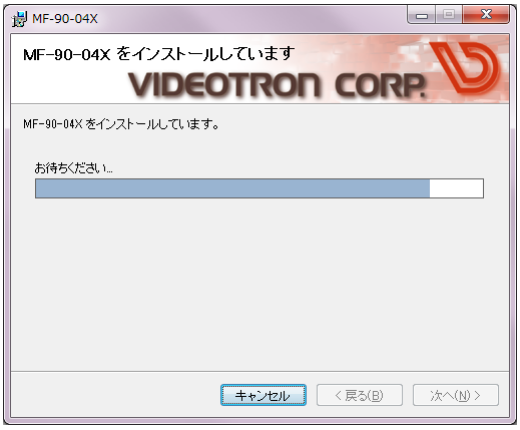
3)



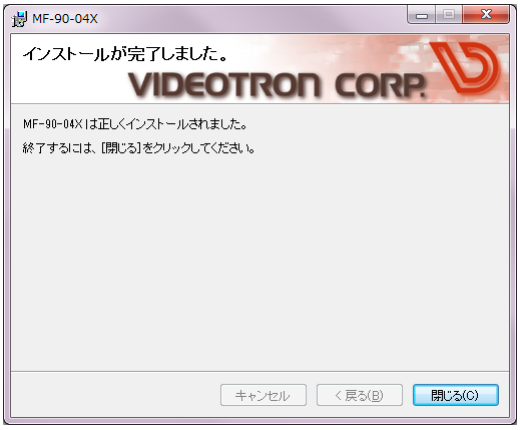
4)



5)



6)



5. ソフトウェアの起動

本ソフトウェアは MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末から自動起動されます。

※ 詳細については MF-90-02/MF-APP の取扱説明書をご参照ください。

6. 対応フォーマット

6.1. 静止画

ファイル形式		備考
BMP	RGB/カラーマップ/グレースケール、ボトムアップ/トップダウン対応、非圧縮/RLE 圧縮	JPEG・PNG 形式 BMP は非対応
JPEG	RGB/YCbCr/グレースケール、ベースライン/プログレッシブ	ロスレス JPEG は非対応
PICT	16・32 ビット Direct Bit、2～8 ビット Pixmap	
PNG	RGB/カラーマップ/グレースケール、アルファチャンネル対応 非圧縮/Deflate 圧縮	
PSD	Adobe® Photoshop® 形式、8 ビット RGB	
SWF	Adobe® Flash® 形式 **※別途 Internet Explorer 用 Flash プラグインが必要**	音声データの抽出は非対応
TARGA	RGB/カラーマップ/グレースケール、Image Origin ビット対応 非圧縮/RLE 圧縮	
TIFF	RGB/CMYK/YCbCr/グレースケール、 非圧縮/JPEG 圧縮/Deflate 圧縮	マルチページ TIFF には非対応
vPNG	高速 VPNG、通常 VPNG、CF9940/48VPNG に対応	ビデオトロン独自形式
J2C		ビデオトロン独自形式
VJ2	静止画・音声付静止画・動画	ビデオトロン独自形式
STW ST5	静止画・ロール	ビデオトロン独自形式 送出イメージデータを含むファイルのみ対応

6.2. MXF

コンテナ	映像フォーマット	音声フォーマット
MXF Op1a (SMPTE 378M 準拠)	MPEG-2 MP@HL (35/25/18Mbps) 有効画素数 1440×1080	LinearPCM 4ch/2ch 16bit/48kHz
	MPEG-2 422P@HL (50Mbps) 有効画素数 1920×1080	Linear PCM 8ch 24bit/48kHz

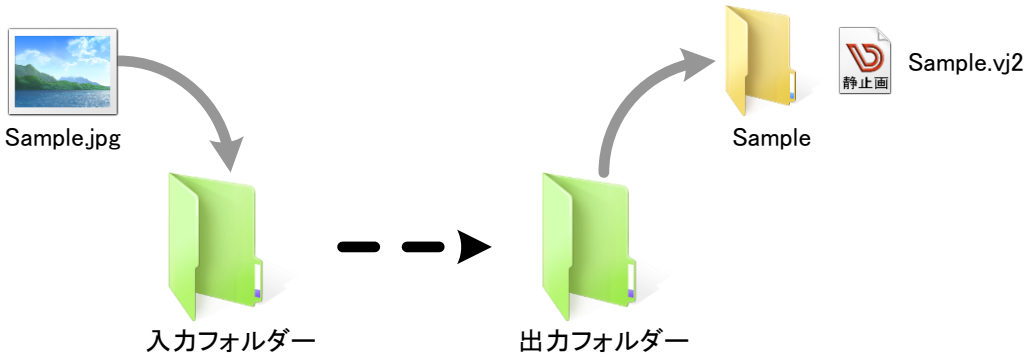
7. 基本操作

変換の基本操作は以下の通りです。

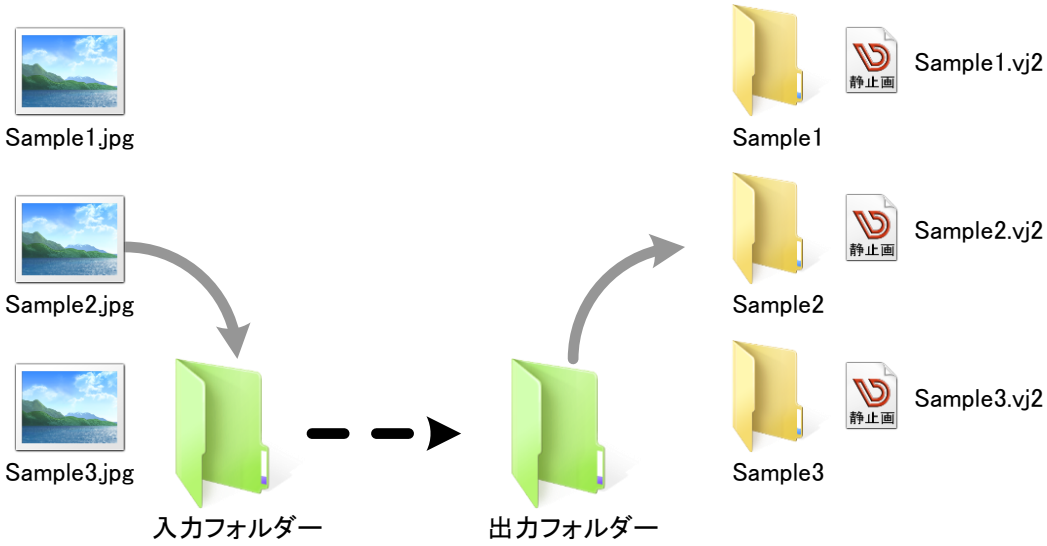
7.1. 画像ファイル 1 枚を変換

入力フォルダーに画像ファイルを保存します。

出力フォルダーには、静止画またはロールの VJ2 ファイルが出力されます。



複数枚の画像ファイルを入力フォルダーに保存すると、それぞれが VJ2 ファイルとして変換されます。



※ 出力フォルダーには、入力した画像ファイルの名前のフォルダーが作成されます。
作成されたフォルダーの中に、変換された VJ2 ファイルが保存されます。

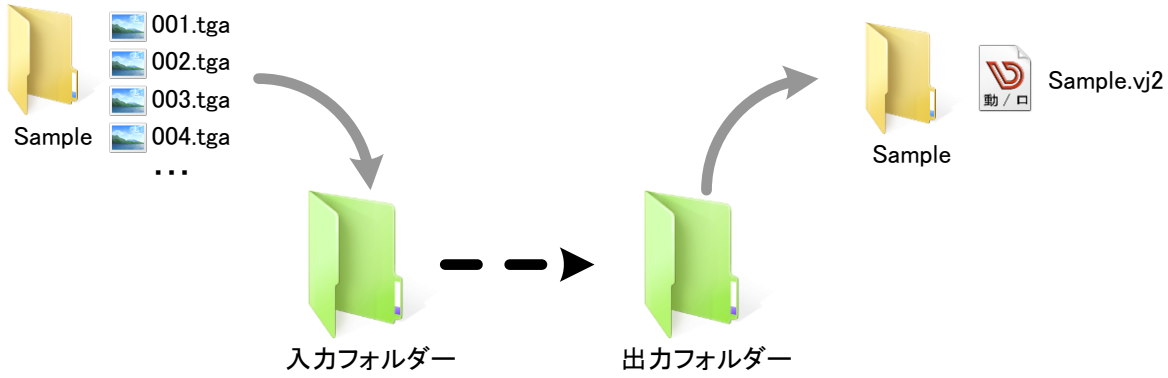
※ 入力したファイルが ST5 などのロールファイルだった場合は、ロールの VJ2 ファイルが出力されます。

※ 入力フォルダーに保存したファイルは、退避フォルダーに移動されます。
退避設定を無効にすると、入力したファイルは削除されますのでご注意ください。

7.2. 複数枚の画像ファイルを動画またはロールとして変換

入力フォルダーに画像が入ったフォルダーを保存します。

出力フォルダーには、動画またはロールの VJ2 ファイルが出力されます。



※ 出力フォルダーには、入力したフォルダーと同じ名前のフォルダーが作成されます。
作成されたフォルダーの中に、変換された VJ2 ファイルが保存されます。

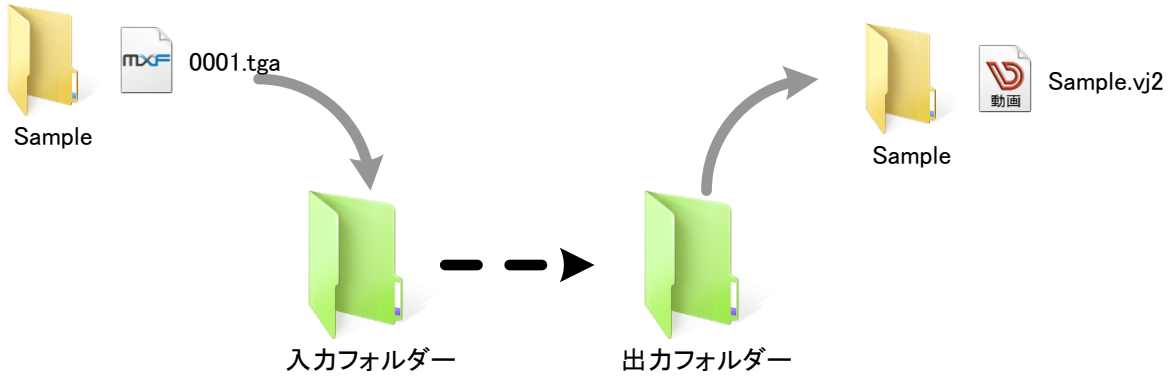
※ 動画/ロールどちらに変換するか指定する方法は複数あります。
・オプションウィンドウで「動画と判断する連番画像数の最小数」を設定する
・変換設定ファイルを使用する
詳細は、後述の各説明を参照してください。

※ 入力フォルダーに保存したフォルダーは、サブフォルダーごと退避フォルダーに移動されます。
退避設定を無効にすると、入力したフォルダーは削除されますのでご注意ください。

7.3. MXF ファイルを変換

入力フォルダーに MXF ファイルが入ったフォルダーを保存します。

出力フォルダーには、動画の VJ2 ファイルが出力されます。



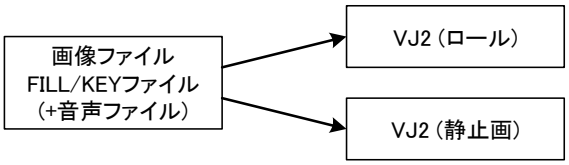
※ MXF ファイルを動画に変換する時は、MXF ファイルが入ったフォルダーを入力してください。

※ 入力フォルダーに保存したフォルダーは、サブフォルダーごと退避フォルダーに移動されます。
退避設定を無効にすると、入力したフォルダーは削除されますのでご注意ください。

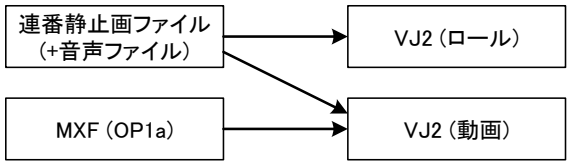
8. 機能説明

8.1. フォーマット変換

静止画、連番静止画、動画(MXF)を VJ2 に変換します。



画像ファイルの変換



連番静止画ファイル・動画ファイルの変換

入力フォルダーへの保存方法によって、どの変換が行われるかが決定します。

◆ 入力フォルダー直下に**ファイル**を保存

静止画またはロールに変換します。

ロールファイルの場合にはロールに、それ以外の場合は静止画に変換します。

入力可能なフォーマットは「6.1 静止画」の内容となります。

◆ 入力フォルダー以下に**フォルダー**を保存

動画またはロールに変換します。

MXF ファイルの場合は動画に、連番静止画の場合は画像枚数によって動画またはロールに変換します。

ただし、フォルダー内が静止画 1 枚だけの時、FILL/KEY ペアの静止画 1 つだけの時は静止画に変換します。

入力可能なフォーマットは「6.1 静止画」「6.2 MXF」の内容となります。

FILL/KEY のペアファイル名や連番静止画などのファイル名規則については、「8.10 ファイル名の自動認識」を参照してください。

※ 入力フォルダー直下に MXF ファイルを保存しても変換されません。(静止画へ変換できません)

8.2. 変換許可時間帯/禁止時間帯

特定の時間だけコンピューターの負荷を抑えたい場合や、変換処理を行う時間帯を限定したい場合のために、変換処理の実行を許可/禁止する時間帯を指定することができます。

◆ 変換許可時間帯を、[全曜日共通]または[曜日毎]に設定することができます。

◆ 変換禁止時間帯を、[全曜日共通]または[曜日毎]に設定することができます。

◆ それぞれの時間指定は 0 時～32 時の範囲で設定することができます。(00:00:00～31:59:59)

◆ 変換禁止時間帯と変換許可時間帯が重なった場合、変換禁止時間帯の方が優先されます。

※ 変換許可時間帯の設定を行うと、許可された時間以外は全て変換禁止時間帯となります。

8.3. オリジナルファイルの退避（バックアップ）

入力フォルダーに保存されたファイル/フォルダーを、指定されたフォルダーに移動することができます。
ファイルサーバーなどを退避先に指定することで、MXF ファイル作成からバックアップ保存までを 1 アクションで行うことができます。
バックアップを行わない場合は、入力フォルダーに保存されたファイル/フォルダーは変換完了後に削除されます。

8.4. 変換設定ファイル

通常はソフトウェアの設定に従って、自動的に変換処理を行います。
変換設定ファイルを使用すると、変換するファイル/フォルダーごとに変換の設定を行うことができます。
この設定は今回限り有効で、ソフトウェアの設定は変更されません。

詳細については「MF-90-04 インターフェース仕様書」を参照してください。

※ MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末と連携して使用する場合は、MF-90-02/MF-APP が本ソフトウェアを制御します。変換設定などを意識する必要はありません。

8.5. ロール設定ファイル

ロールに変換する時に、ロール方向やロール時間を、テキストファイルで指定することができます。
ロール設定ファイルがない場合は、ソフトウェアに設定されたデフォルト値でロール変換されます。
シンプルなファイル構造なので、オペレーターが手入力でロール設定ファイルを作成することができます。

詳細については「10.6 ロール設定ファイル」を参照してください。

8.6. ロール入力フォルダー

通常の入力フォルダーとは別に、入力されたファイル/フォルダーを強制的にロールに変換するためのフォルダーを設定することができます。
ロール方向ごとに異なる入力フォルダーを設定することができます。
変換設定ファイルを使うのは煩わしいがロール方向だけは指定したい、というような使い方が可能です。

ロール入力フォルダーは、出力される VJ2 ファイルがロールであることを除いて、通常の入力フォルダーと同じ動作をします。

入力フォルダーに保存したファイル/フォルダーと、出力するファイルの種別の関係は、次のようになっています。

◆　入力フォルダー直下に画像ファイルを保存した場合

入力フォルダー	**出力するファイル**	**処理方法**
入力ファイル	静止画またはロール	ファイルを自動認識して、静止画またはロールに変換。
入力ファイル 変換設定ファイル	静止画またはロール	変換設定ファイルに従って変換する。
入力ファイル ロール設定ファイル	ロール	ロール設定ファイルに従って変換する。

◆　入力フォルダー以下にフォルダーを保存した場合

入力フォルダー	**出力するファイル**	**処理方法**
フォルダー 入力ファイル	ロールまたは動画 または静止画	ファイルを自動認識して出力形式を決定する。
フォルダー 画像ファイル	ロールまたは動画	ファイルを自動認識して出力形式を決定する。 (ロール/動画の判断は画像枚数によって決定する)
フォルダー 変換設定ファイル 画像ファイル	ロールまたは動画	変換設定ファイルに従って変換する。
フォルダー ロール設定ファイル 画像ファイル	ロール	ロール設定ファイルに従って変換する。

◆　ロール入力フォルダー直下に画像ファイルを保存した場合

入力フォルダー	**出力するファイル**	**処理方法**
入力ファイル	静止画またはロール	ファイルを自動認識して、静止画またはロールに変換。 ロールの時は、ロール入力フォルダーの方向に従う。
入力ファイル 変換設定ファイル	静止画またはロール	変換設定ファイルに従って変換する。
入力ファイル ロール設定ファイル	ロール	ロール設定ファイルに従って変換する。

◆　ロール入力フォルダー以下にフォルダーを保存した場合

入力フォルダー	**出力するファイル**	**処理方法**
フォルダー 入力ファイル	ロールまたは動画	ファイルを自動認識して出力形式を決定する。 ロールの時は、ロール入力フォルダーの方向に従う。
フォルダー 画像ファイル	ロールまたは動画	ファイルを自動認識して出力形式を決定する。 (ロール/動画の判断は画像枚数によって決定する)

		ロールの時は、ロール入力フォルダーの方向に従う。
フォルダー 変換設定ファイル 画像ファイル	ロールまたは動画	変換設定ファイルに従って変換する。
フォルダー ロール設定ファイル 画像ファイル	ロール	ロール設定ファイルに従って変換する。

8.7. 出力フォルダー

出力フォルダーには入力の種類に関わらず、常にフォルダーを作成してその下に変換したファイルを保存します。

◆ 入力がファイルの時は、入力したファイル名のフォルダーを作成します。

◆ 入力がフォルダーの時は、入力したフォルダー名のフォルダーを作成します。

フォルダー内には以下のファイルが保存されます。

VJ2 ファイル	ビデオトロン独自フォーマットのファイルです。(内部形式 JPEG2000) 入力がフォルダーの時は「<入力ファイル名>.vj2」となります。 入力がファイルの時は「<入力フォルダー名>.vj2」となります。
変換エラー情報ファイル (ファイル名「ErrInfo.txt」)	変換中にエラーが発生した時に保存されるテキストファイルです。 発生日時、対象ファイル、エラーの原因・内容などが記載されます。
変換ステータスファイル (ファイル名「Progress.ini」)	対象のファイル/フォルダー名と、進行状況が保存されるテキストファイルです。 変換処理開始と同時に作成され、以降変換の進捗に従って随時更新されます。 外部制御用のファイルで、通常意識する必要はありません。 詳細については「MF-90-04 インターフェース仕様書」を参照してください。

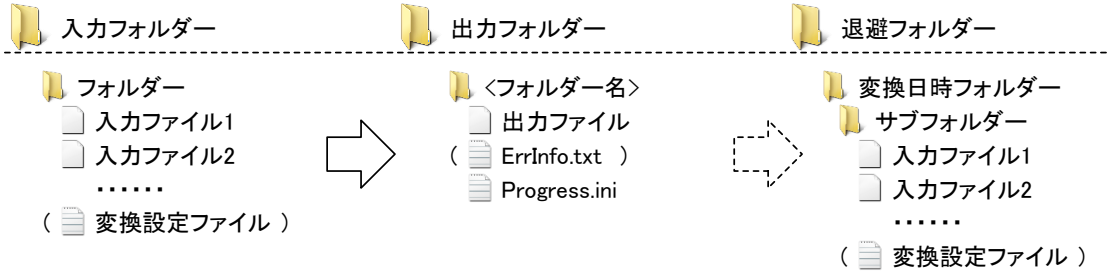
※ MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末と連携して使用する場合は、MF-90-02/MF-APP が出力フォルダーを監視して、出力されたファイルを自動的に MF-90HD/SD に登録します。
出力フォルダーを意識する必要はありません。

8.8. 入力・退避・出力フォルダーの関係

入力するファイルと、退避・出力フォルダーに保存されるフォルダー・ファイルの関係は、次のようなっています。

◆ 入力フォルダー直下にファイルを保存した場合

◆　入力フォルダー以下にフォルダーを保存した場合



8.9.　変換処理のキャンセル

長尺動画などの変換中、出力フォルダー内に作成されたフォルダーを削除すると、変換処理をキャンセルすることができます。

※　MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末と連携して使用する場合は、MF-90-02/MF-APP がこれらキャンセル処理を制御します。

8.10.　ファイル名の自動認識

入力フォルダー内にフォルダーを保存すると、フォルダー内のファイルはソフトウェアによって自動的に FILL/KEY/音声ファイルとして認識され、変換されます。
ファイル名の自動認識は、以下の規則に従っています。

8.10.1.　FILL/KEY ペアファイル

以下の条件を満たした時、ファイルは FILL と KEY のペアとして認識します。

◆　ファイル名の拡張時を除いた部分に「_」(アンダーバー)があること。
◆　「_」(アンダーバー)より前の部分が同じファイルが 2 つ存在すること
◆　ファイル名の拡張子を除いた部分の末尾が「_FILL」「_FIL」「_F」のいずれかであること(大・小文字の区別なし)
　→FILL ファイルとして認識します。
◆　ファイル名の拡張子を除いた部分の末尾が「_KEY」「_K」のいずれかであること(大・小文字の区別なし)
　→KEY ファイルとして認識します。

それ以外の場合は、ファイルは FILL またはアルファチャンネル付きのファイルとして認識します。

8.10.2.　連番ファイル

連番ファイルのファイル名は、以下の規則に従ってください。

◆　ファイル名の連番以外の部分が同一であること。
◆　連番の桁数が同一であること。(001, 002, …, 010, …)

※　連番の途中に抜けがあった場合は、抜けている部分が詰められます。

8.10.3. 音声ファイル

音声ファイル名の Ch 番号は、次の規則に従ってください。

- ◆ Ch 番号を示す数字は、ファイル名の一番後ろに配置する。
  （"Test01ch02ch.wav"というファイル名の場合は、02 が Ch 番号として使用されます）
- ◆ Ch 番号は 1～8 の数字を指定する。（01 や 001 など、0 が付加されていても問題ありません）
- ◆ ステレオ Wav ファイルの場合は、割り当てる Ch の若い方の番号を指定する。
  （3・4ch に割り当てる→3 を指定する）

以下に割り当ての例を示します。

入力ファイル	Ch 割り当て	
Audio_ch1.wav(モノラル)	Ch1	Audio_ch1.wav (---)
Audio_ch3.wav(ステレオ)	Ch2	未割り当て（無音）
Audio_ch6.wav(ステレオ)	Ch3	Audio_ch3.wav (ch1)
Audio_ch7.wav(モノラル)	Ch4	Audio_ch3.wav (ch2)
Audio_ch8.wav(ステレオ)	Ch5	未割り当て（無音）
	Ch6	Audio_ch6.wav (ch1)
	Ch7	Audio_ch7.wav (---)
	Ch8	Audio_ch8.wav (1ch)

※ Ch 指定が重複した場合は、ファイル名順で若い方のファイルが優先されます。

※ ステレオ Wav ファイルの ch2 に位置する ch に別の Wav ファイルを指定すると、別ファイルによる指定が優先されます。（上の表 ch7）

9. 各部の名称とはたらき

9.1. タスクトレイアイコン

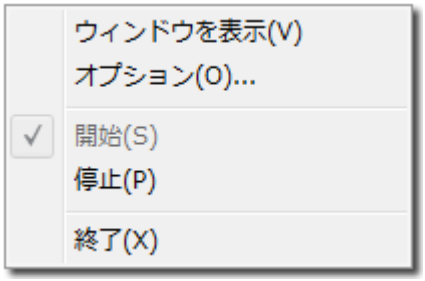
ソフトウェアを起動するとタスクトレイに常駐し、ソフトウェアのウィンドウは表示されません。
タスクトレイアイコンをダブルクリックすると、ソフトウェアのメインウィンドウが表示されます。

タスクトレイアイコンは、ソフトウェアの動作状況によって表示が切り替わります。

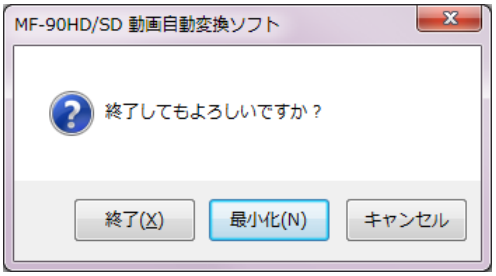
- 変換処理が開始状態で、変換可能時間帯の時に表示されます。
  入力フォルダーに保存されたファイルは、自動的に変換されます。
- 変換処理が開始状態で、変換禁止時間帯の時に表示されます。
  入力フォルダーの監視は行われていますが、変換処理は行われません。
- メニューで[停止]を選択した時など、変換処理が停止状態の時に表示されます。
  変換処理は行われません。
  入力フォルダーの監視も行われません。

変換可能時間帯、変換禁止時間帯については、「8.2 変換許可時間帯/禁止時間帯」を参照してください。

タスクトレイアイコンを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

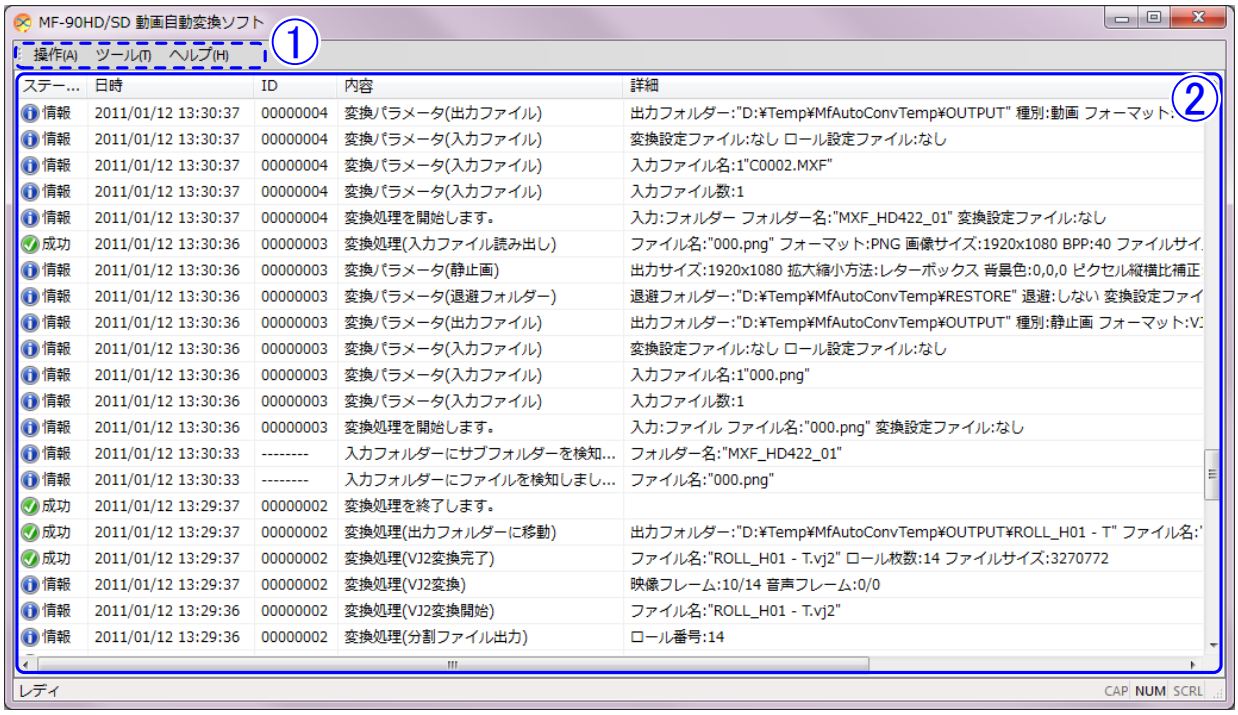


ウィンドウを表示…ソフトウェアのメインウィンドウを表示します。
オプション……ソフトウェアの設定画面を表示します。
開始……自動変換を可能な状態にします。
（ ・ アイコンの状態）
停止……自動変換を禁止します。
（ アイコンの状態）
終了……ソフトウェアを終了します。
選択すると、下記のダイアログが表示されます。



9.2. メインウィンドウ

タスクトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューで[ウィンドウを表示]を選択すると、以下のウィンドウが表示されます。


MF-90HD/SD 動画自動変換ソフト
操作(A) ツール(T) ヘルプ(H)
①
②
ステー... 日時 ID 内容 詳細
情報 2011/01/12 13:30:37 00000004 変換パラメータ(出力ファイル) 出力フォルダー:"D:¥Temp¥MfAutoConvTemp¥OUTPUT" 種別:動画 フォーマット:
情報 2011/01/12 13:30:37 00000004 変換パラメータ(入力ファイル) 変換設定ファイル:なし ロール設定ファイル:なし
情報 2011/01/12 13:30:37 00000004 変換パラメータ(入力ファイル) 入力ファイル名:1"C0002.MXF"
情報 2011/01/12 13:30:37 00000004 変換パラメータ(入力ファイル) 入力ファイル数:1
情報 2011/01/12 13:30:37 00000004 変換処理を開始します。 入力:フォルダー フォルダー名:"MXF_HD422_01" 変換設定ファイル:なし
成功 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換処理(入力ファイル読み出し) ファイル名:"000.png" フォーマット:PNG 画像サイズ:1920x1080 BPP:40 ファイルサイ
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(静止画) 出力サイズ:1920x1080 拡大縮小方法:レターボックス 背景色:0,0,0 ピクセル縦横比補正
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(退避フォルダー) 退避フォルダー:"D:¥Temp¥MfAutoConvTemp¥RESTORE" 退避:しない 変換設定ファイ
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(出力ファイル) 出力フォルダー:"D:¥Temp¥MfAutoConvTemp¥OUTPUT" 種別:静止画 フォーマット:V
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(入力ファイル) 変換設定ファイル:なし ロール設定ファイル:なし
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(入力ファイル) 入力ファイル名:1"000.png"
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換パラメータ(入力ファイル) 入力ファイル数:1
情報 2011/01/12 13:30:36 00000003 変換処理を開始します。 入力:ファイル ファイル名:"000.png" 変換設定ファイル:なし
情報 2011/01/12 13:30:33 -------- 入力フォルダーにサブフォルダーを検知... フォルダー名:"MXF_HD422_01"
情報 2011/01/12 13:30:33 -------- 入力フォルダーにファイルを検知しまし... ファイル名:"000.png"
成功 2011/01/12 13:29:37 00000002 変換処理を終了します。
成功 2011/01/12 13:29:37 00000002 変換処理(出力フォルダーに移動) 出力フォルダー:"D:¥Temp¥MfAutoConvTemp¥OUTPUT¥ROLL_H01 - T" ファイル名:
成功 2011/01/12 13:29:37 00000002 変換処理(VJ2変換完了) ファイル名:"ROLL_H01 - T.vj2" ロール枚数:14 ファイルサイズ:3270772
情報 2011/01/12 13:29:37 00000002 変換処理(VJ2変換) 映像フレーム:10/14 音声フレーム:0/0
情報 2011/01/12 13:29:36 00000002 変換処理(VJ2変換開始) ファイル名:"ROLL_H01 - T.vj2"
情報 2011/01/12 13:29:36 00000002 変換処理(分割ファイル出力) ロール番号:14
レディ
CAP NUM SCRL

1. メニューバー

メインウィンドウのメニューです。

詳細は「9.3 メニュー」を参照してください。

2. ログ表示

直近のログ（処理結果）を表示します。

詳細は「9.4 ログ表示」を参照してください。

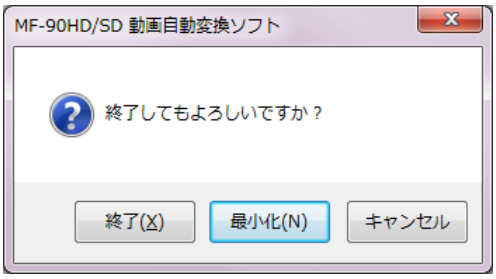
9.3. メニュー

1. 操作

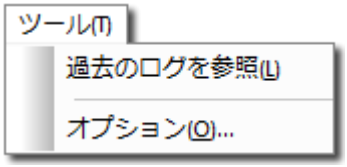
開始……自動変換を可能な状態にします。
（ ・ アイコンの状態）

停止……自動変換を禁止します。
（ アイコンの状態）

終了……ソフトウェアを終了します。
選択すると、下記のダイアログが表示されます。



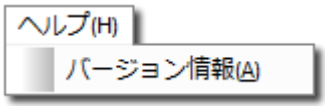
2. ツール



過去のログを参照……以前の変換結果ログを参照・表示します。
選択すると[過去のログを表示]ウィンドウを表示します。

オプション……ソフトウェア設定画面を表示します。

3. ヘルプ



バージョン情報……ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

9.4. ログ表示

ソフトウェアの動作記録、変換結果、変換したファイルの情報などは、すべてログファイルに記録されます。
ログファイルは日ごとのバイナリファイルで、アプリケーションデータフォルダーに保存されます。
ログファイルは一定期間保存された後、ソフトウェアによって自動的に削除されます。
（標準のログ保存期間は 30 日です。）

ログに記録される項目は以下の通りです。

- ◆ ソフトウェアの起動・終了
- ◆ 入力フォルダーにファイル/フォルダーが保存された
- ◆ 変換処理の開始・終了（成功/失敗）
- ◆ 変換パラメーター（入力ファイル/フォルダー名、ファイル数、出力設定、退避設定、…）
- ◆ 入力ファイル情報（フォーマット、MXF メタデータ内容、フレーム数、…）
- ◆ 出力ファイル情報（画像サイズ、フレーム数、ファイルサイズ、…）

表示される表示項目は、以下の通りです。

ステータス	ログ項目の状態です。（アイコンと文字）
日時	ログ項目が発生した日時です。
ID	ファイル変換処理を識別するための ID です。 変換処理にはファイル/フォルダーごとに固有の ID が割り振られており、ログの中から検索対象の変換処理を識別しやすくなっています。 （例:ファイル A の変換は ID00000001、フォルダーB の変換は ID00000002 のように割り振られます）
内容	ログ項目が意味している内容の文字列が表示されます。
詳細	ログ項目の詳細が文字列で表示されます。

9.5. 「過去のログを表示」ウィンドウ

以前の変換結果や、メインウィンドウに表示されていない（流れてしまった）ログを表示します。

1. 日付を指定して表示

ログを表示する日付を指定します。

日付を選択して[表示]ボタンをクリックすると、選択した日付のログが表示されます。

2. ファイルを開く

別の場所にコピーした場合などに使用します。

選択したログファイルが表示されます。

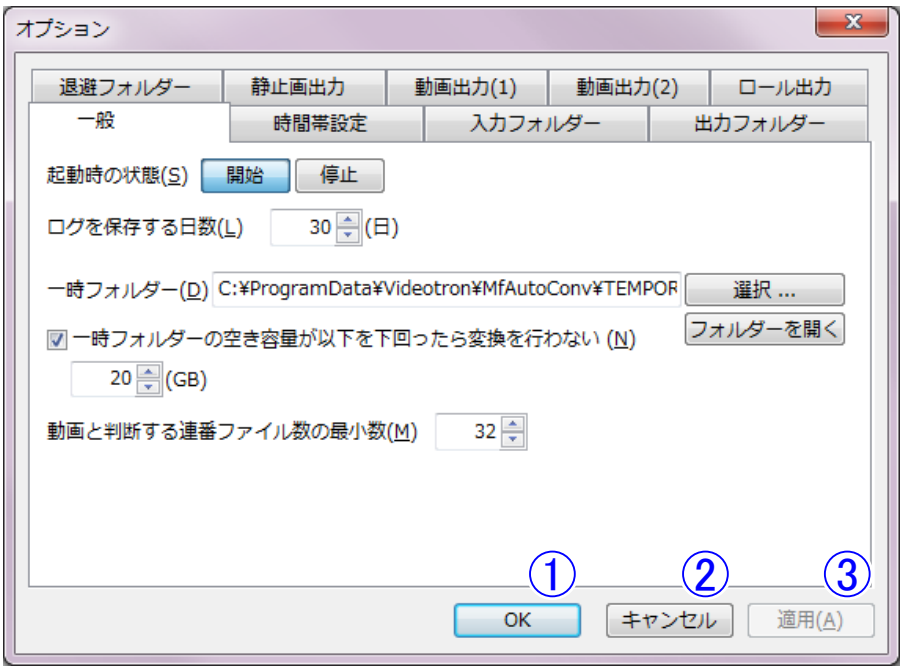
3. ログ表示

メインウィンドウに表示される内容と同じです。

詳細は「9.4 ログ表示」を参照してください。

9.6. 「オプション」ウィンドウ

ソフトウェアの設定を表示・編集します。



1. [OK]ボタン

設定変更内容を適用して、ウィンドウを閉じます。

他のタブページの設定変更内容も同時に適用されます。

2. [キャンセル]ボタン

設定変更内容を破棄して、ウィンドウを閉じます。

他のタブページの設定変更内容も全て破棄されます。

3. [適用]ボタン

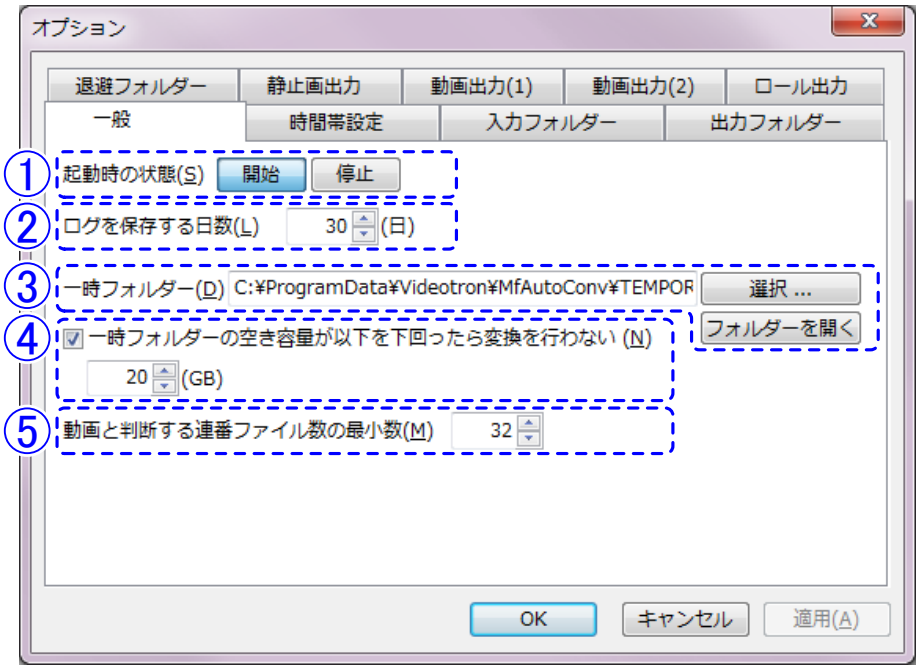
設定変更内容を適用して、ソフトウェア設定に反映します。

他のタブページの設定変更内容も同時に適用されます。

※ MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末と連携して使用する場合は、MF-90-02/MF-APP が本ソフトウェアの設定を制御します。[オプション]ウィンドウを使用して設定を変更する必要はありません。

※ 手動で設定を変更すると、予期しない問題が発生することがありますので、編集には十分ご注意ください。

9.6.1. [一般]タブ



1. 起動時の状態

ソフトウェア起動時の、自動変換処理の開始/停止状態です。

2. ログを保存する日数

ソフトウェアの動作ログを保存する日数です。

この日数を過ぎたログは自動的に削除されます。

3. 一時フォルダー

ソフトウェアが中間ファイルを保存するフォルダーを表示・設定します。

変換するファイルに左右されますが、最大で 100GB 程度のファイルが作成される可能性があります。

空き容量が十分にあるドライブを指定してください。

4. 一時フォルダーの空き容量が以下を下回ったら変換を行わない

一時フォルダーのあるドライブに、指定された空き容量がない場合は、変換処理を行いません。

空き容量がない場合、変換待ち状態となります。

初期値は 20GB に設定されています。

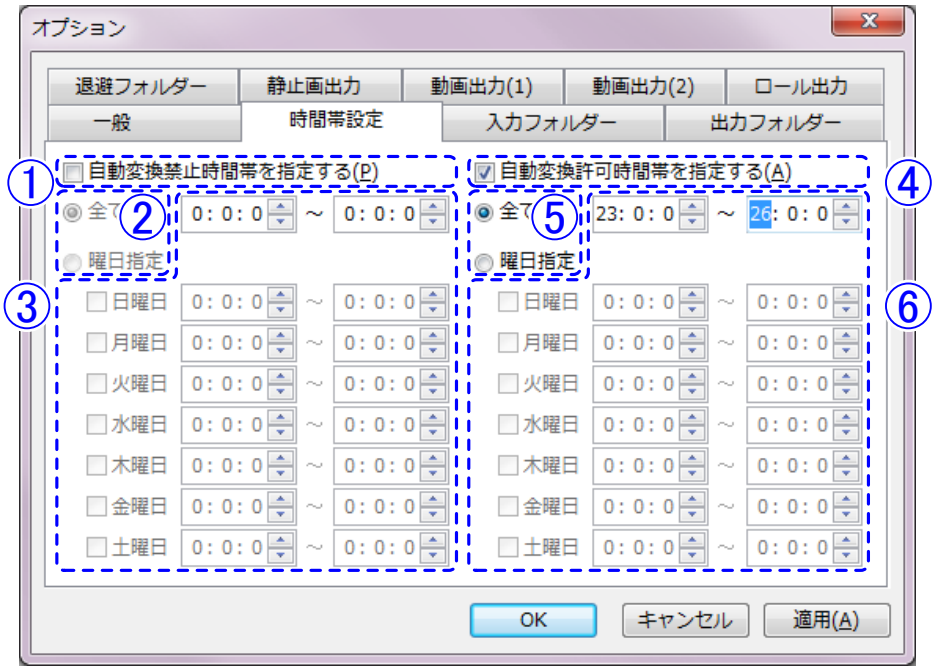
※ 個々のファイルの変換開始時に空き容量確認を行います。

5. 動画と判断する連番ファイル数の最小数

入力フォルダー以下に保存されたフォルダー内の連番ファイル数によって、出力する VJ2 ファイルの種別(動画/ロール)を自動的に切り替えます。

この値より少ない場合はロールに、この値以上の時は動画に変換します。

9.6.2. [時間帯設定]タブ



1. 自動変換禁止時間帯を指定する

変換禁止時間帯を指定するかどうかを表示・設定します。

2. 全て/曜日指定（禁止時間帯）

[全て]を選択すると、全曜日共通の禁止時間帯を設定することができます。

[曜日指定]を選択すると、禁止時間帯指定の有無・禁止時間帯を曜日ごとに設定することができます。

3. 禁止時間帯設定

禁止時間帯を表示・設定します。00:00:00～31:59:59 の範囲で設定することができます。

曜日指定の場合は、チェックを付けた曜日のみ設定することができます。

4. 自動変換許可時間帯を指定する

変換許可時間帯を指定するかどうかを表示・設定します。

5. 全て/曜日指定（許可時間帯）

[全て]を選択すると、全曜日共通の許可時間帯を設定することができます。

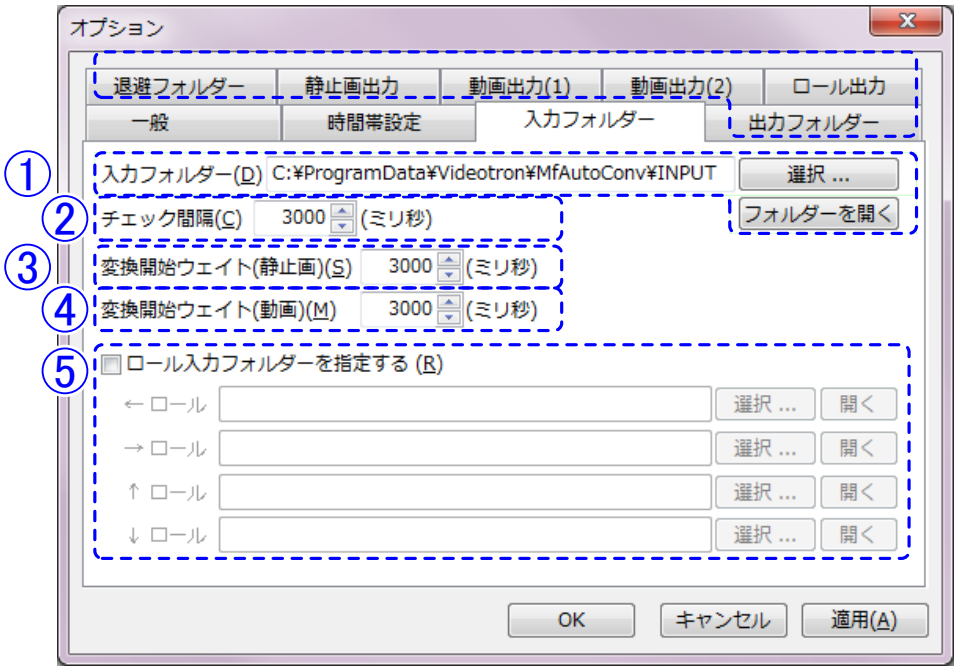
[曜日指定]を選択すると、許可時間帯指定の有無・許可時間帯を曜日ごとに設定することができます。

6. 許可時間帯設定

禁止時間帯を表示・設定します。00:00:00～31:59:59 の範囲で設定することができます。

曜日指定の場合は、チェックを付けた曜日のみ設定することができます。

9.6.3. [入力フォルダー]タブ



1. 入力フォルダー

入力フォルダーとして使用するフォルダーを表示・設定します。

[フォルダーを開く]ボタンをクリックすると、現在設定されているフォルダーをエクスプローラーで表示します。

2. チェック間隔

入力フォルダー内のフォルダー・ファイルをスキャンする間隔です。

間隔が短いほどファイル保存から変換開始までの待ち時間は短くなりますが、短くするほど負荷が高くなります。

3. 変換開始ウェイト(静止画)

入力フォルダー直下にファイルを検知してから、変換処理を開始するまでの待ち時間です。

短く設定しすぎると、外部ソフトウェアとの連携に問題が発生することがあります。

4. 変換開始ウェイト(動画)

入力フォルダー内にフォルダーを検知してから、変換処理を開始するまでの待ち時間です。

短く設定しすぎると、外部ソフトウェアとの連携に問題が発生することがあります。

5. ロール入力フォルダーを指定する、←ロール、→ロール、↑ロール、↓ロール

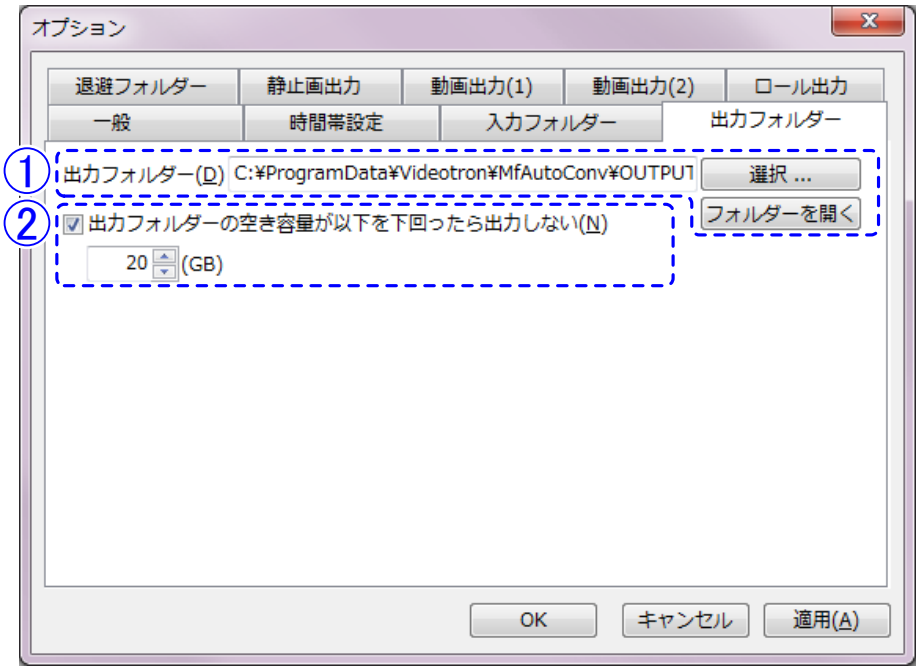
ロールに変換するファイル/フォルダー専用の入力フォルダーを設定します。

このフォルダーに保存されたフォルダー・ファイルは、変換設定ファイル・ロール設定ファイルを使用しなくても自動的に指定された方向のロールに変換されます。

ロール方向ごとにフォルダーを設定できます。

[開く]ボタンをクリックすると、現在設定されているフォルダーをエクスプローラーで表示します。

9.6.4. ［出力フォルダー］タブ



1. 出力フォルダー

ソフトウェアが出力ファイルを保存するフォルダーを表示・設定します。

空き容量が十分にあるドライブを指定してください。

［フォルダーを開く］ボタンをクリックすると、現在設定されているフォルダーをエクスプローラーで表示します。

2. 出力フォルダーの空き容量が以下を下回ったら出力しない

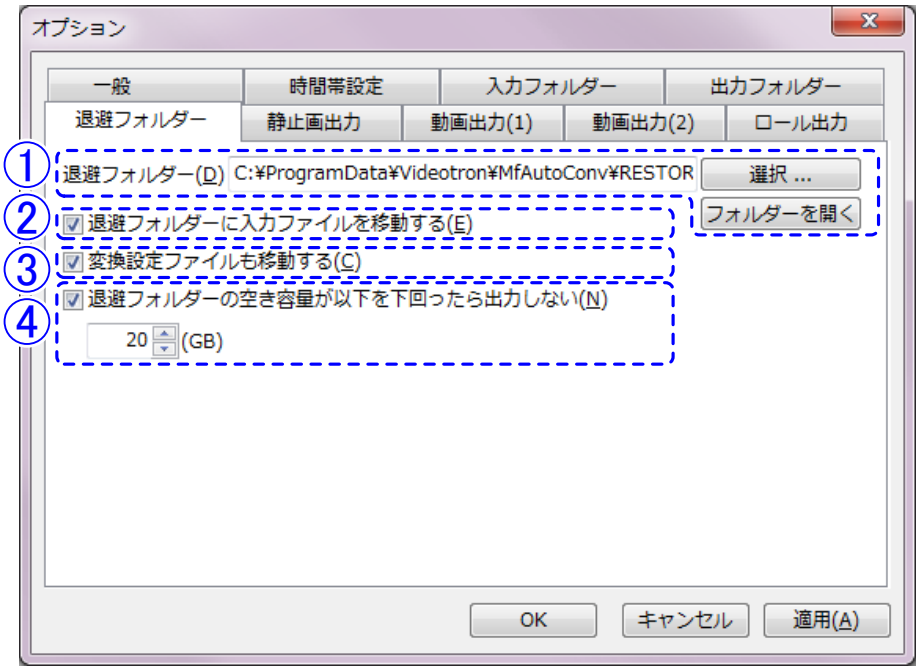
出力フォルダーのあるドライブに、指定された空き容量がない場合は、変換処理を行いません。

空き容量がない場合、変換待ち状態となります。

初期値は 20GB に設定されています。

※ 空き容量確認は、個々のファイルの変換開始時に行われます。

9.6.5. ［退避フォルダー］タブ



1. 退避フォルダー

ソフトウェアが入力ファイルをバックアップするフォルダーを表示・設定します。

空き容量が十分にあるドライブを指定してください。

[フォルダーを開く]ボタンをクリックすると、現在設定されているフォルダーをエクスプローラーで表示します。

2. 退避フォルダーに入力ファイルを移動する

退避フォルダーを使用するかどうか（入力ファイル/フォルダーをバックアップするかどうか）を表示・設定します。

3. 変換設定ファイルも移動する

入力ファイル・フォルダーに変換設定ファイルが付加されていた場合に、変換設定ファイルも退避フォルダーに移動するかどうかを設定・表示します。

4. 退避フォルダーの空き容量が以下を下回ったら出力しない

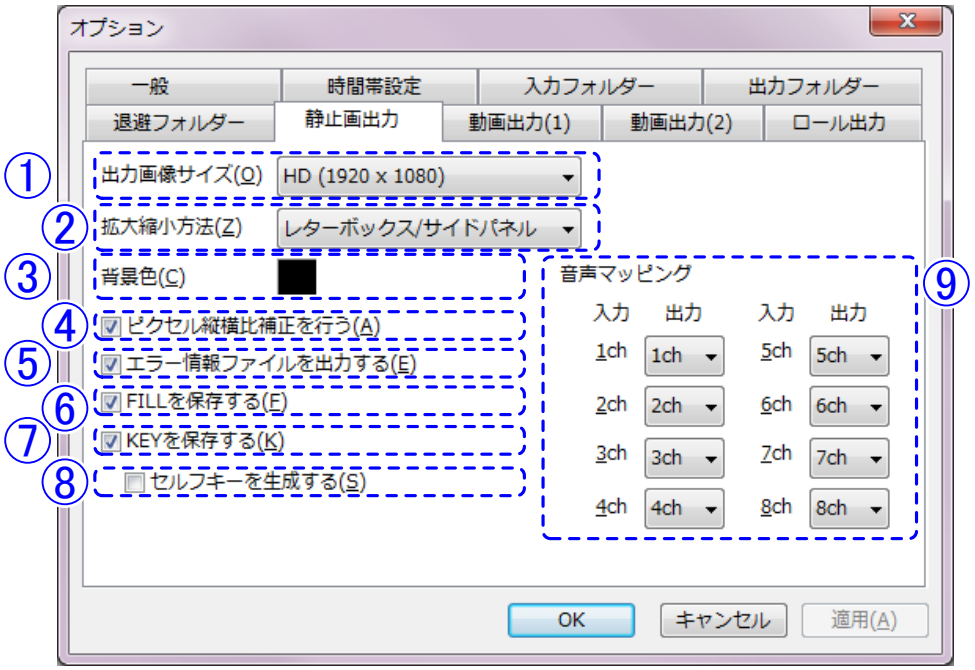
退避フォルダーのあるドライブに、指定された空き容量がない場合は、変換処理を行いません。

空き容量がない場合、変換待ち状態となります。

初期値は 20GB に設定されています。

※ 空き容量確認は、個々のファイルの変換開始時に行われます。

9.6.6. ［静止画出力］タブ



1. 出力画像サイズ

出力する VJ2 ファイルの画像サイズを表示・設定します。

2. 拡大縮小方法

入力画像と出力画像が異なる時の拡大縮小方法を表示・設定します。

以下から選択することができます。

◆ レターボックス/サイドパネル……元画像全体が表示されるように、縦横比固定で拡大縮小します。
余り部分は背景色で埋められます。

◆ サイドカット/エッジクロップ……変換後の画像に余り部分ができないように、縦横比固定で拡大縮小します。
上下または左右の一部が切り取られます。

◆ スクイーズ……縦横比を無視して、変換後の画像サイズに拡大縮小します。

◆ 拡大縮小なし……元画像のサイズを変更しないで、出力後の画像に貼り付けます。
元画像の方が大きい場合は、はみ出した部分が切り取られます。
元画像の方が小さい場合は、余り部分が背景色で埋められます。
（画像の左上を原点として変換します）

3. 背景色

拡大縮小の結果画像に余り部分ができる場合に、余り部分を埋める色を指定します。

4. ピクセル縦横比補正を行う

SD 画像から HD 画像への変換などの場合に、ピクセルアスペクト比の補正を行います。

以下の画像サイズの場合に補正が働きます。

◆ 720×486、720×480、704×480、352×240……NTSC 画像として補正します。(10:11)

◆ 720×576、704×576、352×288……PAL 画像として補正します。(12:11)

◆ 1440×1080、960×720……HD 画像として補正します。(4:3)

◆ その他……1:1 (正方ピクセル)として扱います。

5. エラー情報ファイルを出力する

変換過程でエラーが発生した場合に、エラー情報ファイルを出力するかどうかを表示・設定します。

6. FILL を保存する

出力する VJ2 ファイルに FILL 画像を含めるかどうかを表示・設定します。

7. KEY を保存する

出力する VJ2 ファイルに KEY 画像を含めるかどうかを表示・設定します。

※ FILL を含めずに KEY だけを出力する設定にすると、変換エラーが発生する場合があります。
詳細は「10.1 FILL を含まない VJ2 ファイルの出力」をご参照ください。

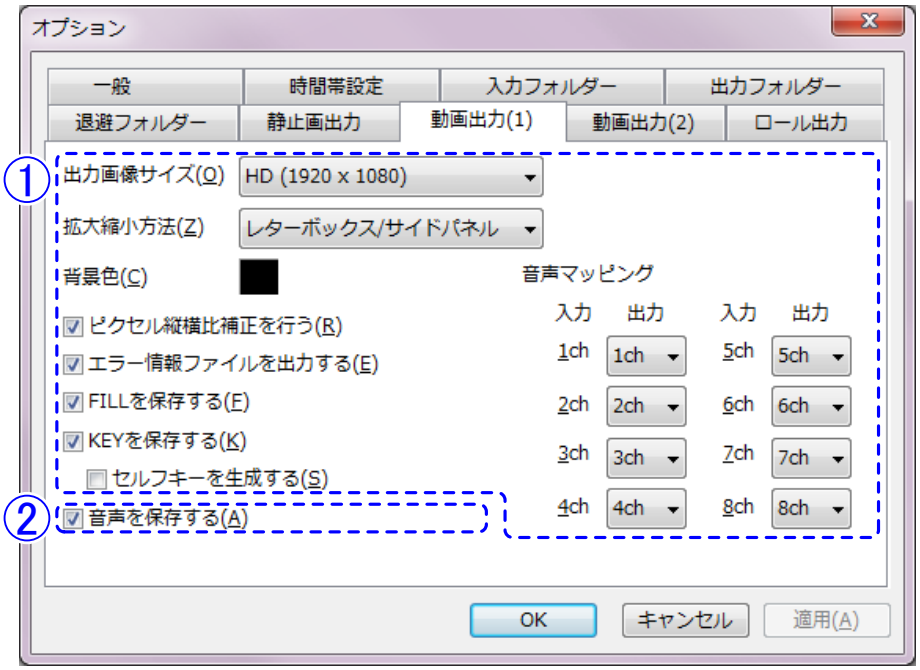
8. セルフキーを生成する

元画像に KEY(αチャンネル)が付加されていない場合にセルフキーを生成するかどうかを表示・設定します。

9. 音声マッピング

入力ファイルの音声を、出力ファイルのどの Ch に割り当てるかを表示・設定します。
無音/1Ch～8ch が設定可能です。

9.6.7. ［動画出力(1)］タブ



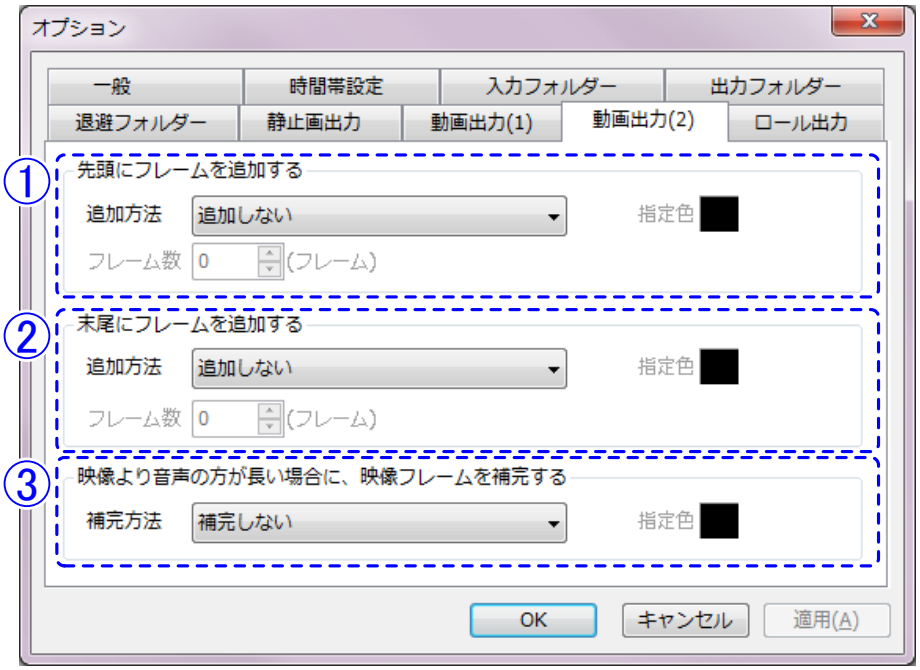
1. 出力画像サイズ、拡大縮小方法、ピクセル縦横比、エラー情報ファイル、FILL/KEY 保存、音声マッピング

「9.6.6 ［静止画出力］タブ」と同じ設定内容です。

2. 音声を保存する

出力する VJ2 ファイルに音声を含めるかどうかを表示・設定します。

9.6.8. ［動画出力(2)］タブ



1. 先頭にフレームを追加する

動画の先頭に映像フレームを追加します。

- ◆ 追加しない……フレームを追加しません。
- ◆ 入力素材の先頭フレームを使用する……変換元素材の先頭フレーム画像をコピーして追加します。
- ◆ 指定色のフレームを作成する……指定された色の画像を作成して追加します。

2. 末尾にフレームを追加する

動画の末尾に映像フレームを追加します。

- ◆ 追加しない……フレームを追加しません。
- ◆ 入力素材の最終フレームを使用する……変換元素材の最終フレーム画像をコピーして追加します。
- ◆ 指定色のフレームを作成する……指定された色の画像を作成して追加します。

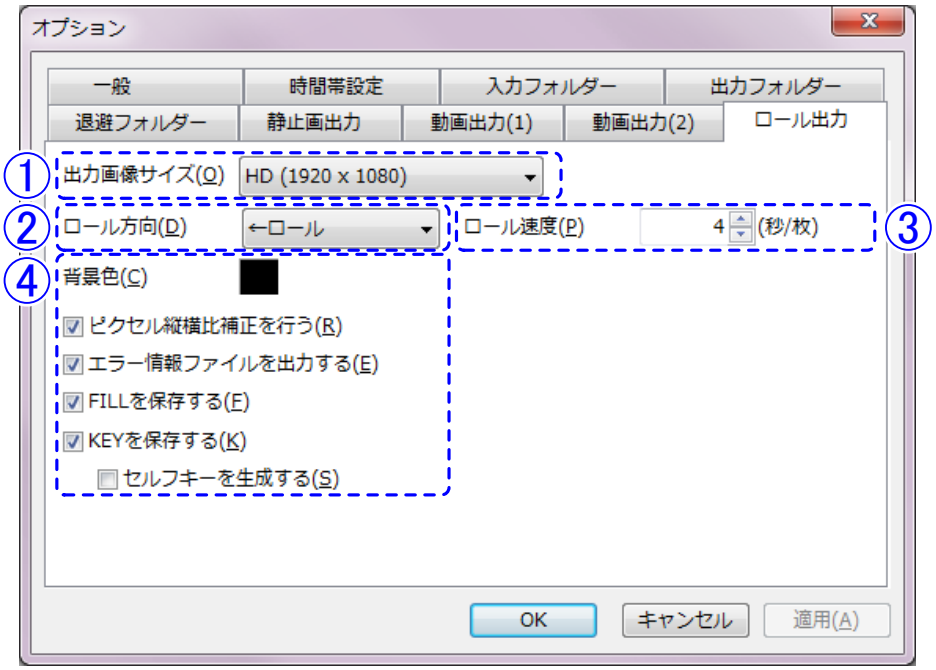
3. 映像より音声の方が長い場合に、映像フレームを補完する

映像フレームより音声フレームの方が長い場合に、不足する映像フレームの補完方法を表示・設定します。

補完を行うと、映像フレームと音声フレームの長さは等しくなります。

- ◆ 補完しない……映像と音声の素材長が異なる VJ2 ファイルを作成します。
- ◆ 入力素材の最終フレームを使用する……変換元素材の最終フレーム画像をコピーして追加します。
- ◆ 指定色のフレームを作成する……指定された色の画像を作成して、不足する分だけ追加します。

9.6.9. ［ロール出力］タブ



1. 出力画像サイズ

出力する VJ2 ファイルの画像サイズを表示・設定します。

「9.6.6 ［静止画出力］タブ」と同じ設定内容です。

2. ロール方向

変換設定ファイル・ロール設定ファイルがない場合の、デフォルトのロール方向を指定します。

※ ロール入力フォルダーに入力した場合は、入力フォルダーで指定されているロール方向が使用されます。

3. ロール速度

変換設定ファイル・ロール設定ファイルでロール時間/ロール速度が指定されていない場合の、デフォルトのロール速度を指定します。

画像 1 枚を何秒かけてスクロールするか、の値を指定します。

4. ピクセル縦横比、エラー情報ファイル、FILL/KEY 保存、セルフキー

「9.6.6 ［静止画出力］タブ」と同じ設定内容です。

※ ロール出力では、画像サイズ変換時の拡大縮小方法を指定することはできません。
詳細は「10.5 拡大縮小を伴うロールファイルの変換」を参照してください。

10. 注意事項

10.1. FILL を含まない VJ2 ファイルの出力

オプションウィンドウの[静止画出力]タブ・[動画出力(1)]タブで、KEY のみ（または KEY+音声）の VJ2 ファイルを作成する設定にすることができます。
（[FILL を出力する]のチェックを外し、[KEY を出力する]にチェックを付ける）

この設定になっている時、以下の条件の全てを満たした場合はエラーとなりますのでご注意ください。

- ◆ [セルフキーを生成する]にチェックが付いていない
- ◆ 元画像にキー（αチャンネル）が付加されていない

変換エラーを回避するには、以下のいずれかの対策が必要です。

- ◆ 元画像にキー（αチャンネル）が付加されている画像を使用する。
- ◆ [セルフキーを生成する]にチェックを付ける（αチャンネルがない場合にセルフキーを生成します）
- ◆ [FILL を出力する]にチェックを付ける。

10.2. Flash(swf)ファイルの変換

Flash ファイルはオブジェクトアニメーションであるため、他の画像形式とは変換結果が異なります。
以下に、変換時の特長・注意事項をまとめます。

10.2.1. レターボックス/サイドパネルが付かない場合がある、背景色指定が機能しない

拡大縮小すると Flash のオブジェクトサイズが変化するため、ソフトウェア設定の背景色が使用されません。
Flash ファイルで設定されているオブジェクトの背景色が使用されます。

10.2.2. アニメーションしない

スクリプトベースの Flash ファイルや、特殊な処理を行っている場合は、正常に変換できない場合があります。
このような問題を避けるためには、スクリプトをなるべくシンプルにするか、タイムラインベースのアニメーションを使用してください。

10.2.3. Flash アニメーション再生時とは異なる速度でアニメーションする

本ソフトウェアの Flash 変換では、フレームレートの変換は対応していません。
Flash ファイルのフレームレートは無視されます。
このような問題を避けるためには、Flash ファイルのフレームレートを 30 フレーム/秒にしてください。

10.3. 入力フォルダーのロック

入力フォルダーに保存されたファイル・フォルダーは、一定時間が経過するとロックされ、エクスプローラーや他のアプリケーションで参照することができなくなります。
（ロックされるまでの時間は「9.6.3 ［入力フォルダー］タブ」の待機時間・変換開始ウェイトによって変化します）

入力フォルダー以下のファイル・フォルダーをロックすることができないと、変換処理は開始されません。
入力フォルダーにファイル・フォルダーを保存した直後に、ファイルを他のアプリケーションで開いたり、フォルダーをエクスプローラーで開いたりすると、変換処理が開始されませんのでご注意ください。

10.4. 手動での変換作業

MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末を使用せずに手動でファイル・フォルダーの変換を行いたい場合は、次の手順で操作してください。

1. 変換する素材を準備する
   変換したい素材を準備して、入力フォルダーに保存する準備を整えます。
   - **静止画 1 枚を静止画に変換**
     画像ファイル 1 枚を準備します。
     ファイル名が VJ2 素材のタイトルとなります。
   - **FILL/KEY 別の画像 2 枚を、静止画 1 ファイルに変換**
     フォルダーを作成して、フォルダーの中に 2 枚の静止画を保存します。
     フォルダー名が VJ2 素材のタイトルとなります。
   - **静止画の連番ファイルを動画 1 ファイルに変換**
     フォルダーを作成して、フォルダーの中に連番静止画全てを保存します。
     音声がある場合は、Wave ファイルもフォルダー内に保存します。
     Ch 指定は、ファイル名の最後（拡張子の手前）に数字で指定します。
     フォルダー名が VJ2 素材のタイトルとなります。
   - **Flash(swf)ファイルを動画 1 ファイルに変換**
     フォルダーを作成して、フォルダーの中に swf ファイルを保存します。
     フォルダー名が VJ2 素材のタイトルとなります。
   - **MXF ファイルを動画 1 ファイルに変換**
     フォルダーを作成して、フォルダーの中に MXF ファイルを保存します。
     フォルダー名が VJ2 素材のタイトルとなります。

2. 入力フォルダーを開く
   エクスプローラーで入力フォルダーを開きます。
   フォルダーの場所がわからない場合は、オプションウィンドウの[入力フォルダー]タブを表示して、[フォルダーを開く]ボタンをクリックしてください。

3. 入力フォルダーに変換するファイル/フォルダーを保存する

   入力フォルダーを開いたら、フォルダーの中に用意したファイル/フォルダーを保存（移動またはコピー）します。

   ※　入力フォルダーに保存したファイルやフォルダーを開かないでください。変換処理が開始されません。

4. 出力フォルダーを開く

   エクスプローラーで出力フォルダーを開きます。

   フォルダーの場所がわからない場合は、オプションウィンドウの[出力フォルダー]タブを表示して、[フォルダーを開く]ボタンをクリックしてください。

   変換が開始されると、用意したファイル名/フォルダー名と同名のフォルダーが出力フォルダー内に作成されます。

5. 変換完了まで待機する

   本ソフトウェアのメインウィンドウを表示して、変換が完了するまで待機します。

   （他のファイル・フォルダーの変更作業が行われている時は、完了するまで時間がかかることがあります）

   または、入力フォルダーに保存したファイルが消えるのを待機します。

   （変換作業が完了すると、入力フォルダー内のファイル・フォルダーは削除されます）

6. 出力フォルダーを確認する

   出力フォルダーに作成されたフォルダーを開いて、VJ2 ファイルが作成されたかどうか確認します。

   ErrInfo.txt がある場合は、処理中に変換エラーが発生したことを示しています。

※　通常は MF-90-02/MF-APP 登録・送出端末が本ソフトウェアと連携して動作するため、手動で変換作業を行う必要はありません。

10.5.　拡大縮小を伴うロールファイルの変換

ロールファイルの変換時に拡大・縮小を伴う場合は、以下のように変換処理が行われます。

（←ロール、アップコンの場合）

1.　元画像

2.　ロール結合

3.　拡大・縮小、ピクセル比補正

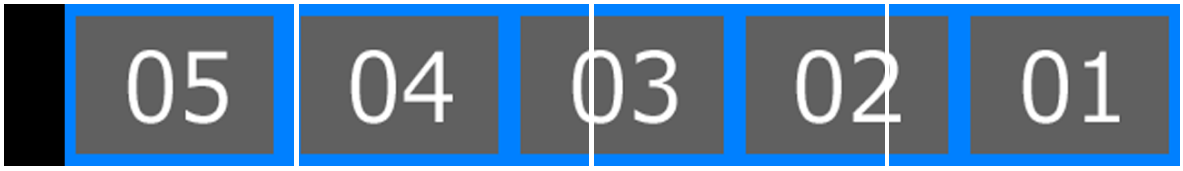
4.　ロール分割

10.5.1.　余り部分の処理

拡大縮小の結果、画像に余り部分が生じる場合は、**ロールの最後**が背景色で埋められます。

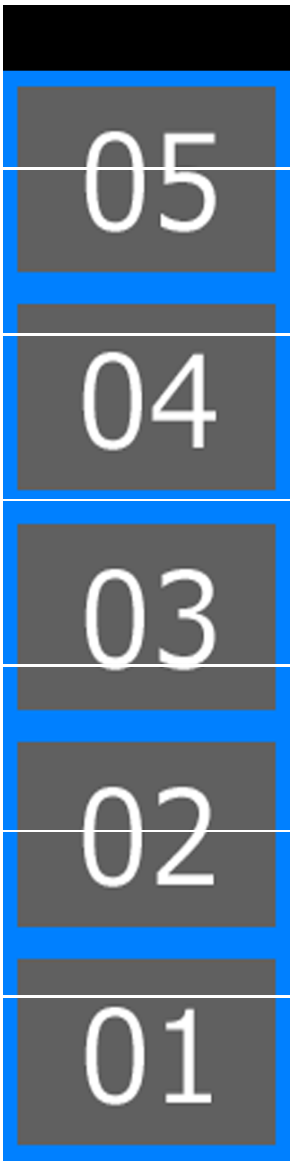
1.　←ロール

2. →ロール



3. ↑ロール

4. ↓ロール



10.6. ロール設定ファイル

ロールファイルに変換する時のロールパラメータを設定するために使用します。

ロール設定ファイルでは、以下のパラメーターを設定することができます。

- ◆ ロール方向
- ◆ ロール速度（画像 1 枚あたりの再生時間）
- ◆ ロール時間（ロール全体の再生時間）

※ ロール速度とロール時間の設定は択一選択です。
両方を指定した場合は、ロール設定ファイルの末尾に近い設定値が優先されます。

ロール設定ファイルは、以下の規則に従って準備してください。

10.6.1. 拡張子

以下の拡張子を持つファイルを、ロール設定ファイルとして認識します。

- ◆ 「.cnf」
- ◆ 「.txt」
- ◆ 「.csv」

10.6.2. ファイル名

入力するのがファイルかフォルダーかによって、ファイル名の付け方が異なります。

- ◆ 入力フォルダー直下の画像ファイルにロール設定ファイルを関連付ける場合
  「入力ファイル名.<ロール設定ファイルの拡張子>」
- ◆ 入力フォルダー内のサブフォルダー内にロール設定ファイルを保存する場合
  「<入力サブフォルダー名>.<ロール設定ファイルの拡張子>」

例: 入力フォルダー直下の「RollData.png」にロール設定ファイルを関連付ける場合は、
入力フォルダー直下に「RollData.cnf」または「RollData.txt」または「RollData.csv」のファイルを保存します。

例: 入力フォルダー内のフォルダー「RollImages」にロール設定ファイルを関連付ける場合は、
「RollImages」フォルダー内に「RollImages.cnf」または「RollImages.txt」または「RollImages.csv」のファイルを保存します。

10.6.3. フォーマット

1 行に 1 パラメーターを記載します。

各行は「キーワード」「区切り文字」「設定値」「改行文字(CRLF)」の要素から成ります。

またキーワード・区切り文字・設定とも、半角英数字で記載してください。（大文字・小文字の区別はありません）

- ◆ キーワード
  指定する設定項目（ロール方向/ロール速度/ロール時間）を識別するための文字。

◆ 区切り文字

キーワードと設定値を区分けするための文字。

◆ 設定値

設定項目に割り当てる値。文字または数字。

10.6.4. キーワード

キーワードは以下の通りです。

設定項目	キーワード
ロール方向	"DIR"または"DIRECTION"
ロール速度	"SPD"または"SPEED"
ロール時間	"DUR"または"DURATION"

※ ロール速度とロール時間の設定は択一選択です。

両方を指定した場合は、ロール設定ファイルの末尾に近い設定値が優先されます。

10.6.5. 区切り文字

区切り文字には、「=」「,」「:」「 (半角スペース)」の 4 種類を使用することができます。

複数の区切り文字を使用しても、また問題ありません。

10.6.6. 設定値

ロール方向には文字列を指定します。

ロール速度・ロール時間には、設定する値を数値で指定します。

設定項目	設定値
ロール方向	←ロール: "LEFT" →ロール: "RIGHT" ↑ロール: "UP"または"TOP" ↓ロール: "DOWN"または"BOTTOM" これ以外の値を指定した場合は、無視されます。
ロール速度	画像 1 枚あたりの再生時間をフレーム値で指定する。 上限値(遅):600 フレーム 下限値(速):10 フレーム 不正な値を指定した場合は、上限または下限に設定されます。
ロール時間	ロール全体の再生時間をフレーム値で指定する。 上限値(遅):(ロール枚数-1)×600 フレーム 下限値(速):(ロール枚数-1)×10 フレーム 不正な値を指定した場合は、上限または下限に設定されます。

10.6.7. サンプル

ロール設定ファイルの記述	説明
DIR=LEFT	←ロールに指定します。
SPEED: 50	ロール速度を 50 フレームに指定します。
	(複数の区切り文字が入っていても問題ありません)
DUR,600	ロール時間を 600 フレームに指定します。
	(この指定により、前行のロール速度は無視されます)
DUR=500	ロール時間を 500 フレームに指定します。
	(前行でのロール時間の指定は無視されます)
DIRECTION=↑	"↑"は正しい設定値ではないため、この行は無視されます。
	(最初の行で指定した←ロールのまま)

御使用者各位

ビデオトロン株式会社

カスタマーサポート

緊 急 時 の 連 絡 先 に つ い て

日頃は、当社の製品をご使用賜わりまして誠にありがとうございます。ご使用中の製品が故障する等の緊急時には、下記のところへご連絡いただければ適切な処置を取りますので宜しくお願い申し上げます。

記

◎営業日の連絡先

ビデオトロン株式会社　カスタマーサポート

〒193-0835　東京都八王子市千人町２－１７－１６

TEL　042-666-6329

FAX　042-666-6330

受付時間　8:30～17:00

e-mail:cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話　042-666-6311

緊急時　090-3230-3507

受付時間　9:00～17:00

※携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承願います。

無断転写禁止

- このファイルに含まれる文書および図版の流用を禁止します。
- このファイルの著作権はビデオトロン株式会社にあります。